

「造形表現指導法」

エコロジカルアート・JAPAN 代表 笹井 弘

要約

造形表現指導法は、幼児教育の領域「表現」の意味と、造形活動の在り方の理解を目的にする。幼児期の造形活動は人生でもっとも活発、且つ積極的に行われる。生活の殆どは遊びであり、それは造形的要素がきわめて多い。主に「もの」を媒体とした造形活動は、幼児の表現手段、媒体、コミュニケーションとして欠かすことはできない。そのため、保育における造形表現活動は、幼児の性別や年齢、経験の量や内容と質、また環境への対応能力や社会性などの個人差があることを理解する。その上でいろいろな素材や用具を使い創造的表現力を身につけさせる。また、豊かな心情や感性を育てるために保育者の関わり方を理解する。

—造形表現指導内容—

<演習例その1・自然素材表現>

身近にある植物を使った造形表現を通して、自然の観察力を養い、自然についての興味や関心を育てる。また、造形表現の基礎知識を習得する。

「松笠」—松笠は未来のエネルギー源?—

松は赤松と黒松の2種に大別でき、日本全国どこでも見ることが出来るもっとも親しみのある樹木の一つである。その松の枝に付いている松笠は、新芽が出る春先にもっとも多く地面に落ちる。落ちてから2週間も外に放置すると造形素材としては不向きになる。使用可能な松笠を手に入れるには、早く保管する必要がある。保管した物は長期間使用可能である。松笠はそのユニークな形状からさまざまなデコレーション素材として利用されているが、ここでは見立ての造形から一歩踏み込んだ作品を作りたい。そこで本演習では松笠を生態学的にとらえた造形表現を、実践活動をふまえて紹介する。

松笠の一つ一つの笠下には翼果が隠されている。多分遠くへ飛ばそうとして羽が着いていると思われる。そのような目的があるのに、雨の日に種が外に飛び出してしまうのは、目的は達成できない。晴れて、適当にそよ風などが吹いている時に飛ばしたいと考えていると思われる。小さい頃、松の木の下にどうゆう訳か2種類の松笠が落ちているのが不思議だった。一つは大きく笠を開いた大人の松笠。もう一方は、笠をギュと締め未熟な子供のようなそれである。実はそれは成長した松笠と未熟な物ではなく、同じ物だと気づいたのはだいぶ大人になってからだった。枝にくっついて種を跳ばしている時も、落ちてからも、雨が降り、松笠にかかると種が飛び出さないように一生懸命笠を閉じていたのである。

<松笠の開閉の特徴>

- (1) 水に濡れて笠を閉じるまでの所要時間：平均30分
- (2) 閉じた笠が全開するまでの所要時間：夏日向30分・夏日陰2時間／冬日向1から2日
- (3) 笠1枚の運動幅：中くらいの物で上下1~1.5cm・前後1~1.5cm
- (4) 水感知場所：松笠中心柱部分

<1-A>松笠による「Mr. スロー」の制作

松笠の開閉を利用した顔の作品。濡れた松笠は30分かけて笠を閉じると顔が無くなる。<写真1>

材料：松笠／接着剤／油性マジック／ヒュートンなど

- 作り方：1，松笠の上部中心に錐か電気ドリルで穴をあけヒュートンを取り付けると作業がし易い。
2，目の位置と口の位置を決め、接着剤を用意して笠に目と口の造形をしながらしっかり接着する。
3，接着剤が完全に乾いたら油性マジックなどで目と口に着色する。



<写真1>



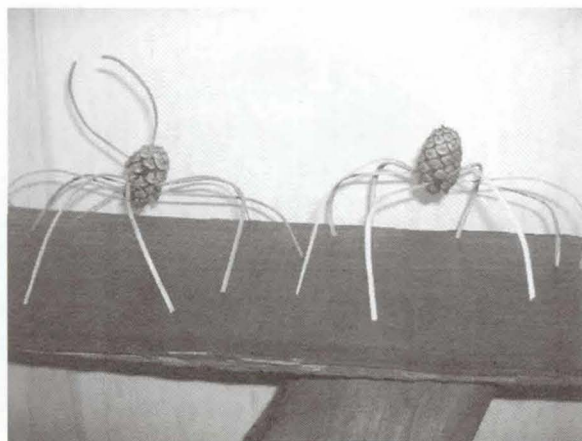
ヒュートン

<1-B>松笠による「動くクモ」の制作

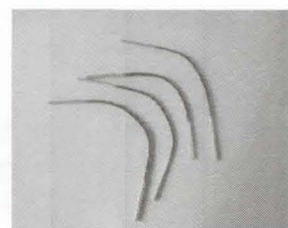
松笠が閉じると松笠に取り付けられた8本の足が、松笠を持ち上げる。<写真2>

材料：Mr. スロー／竹ひご／接着剤／ろうソクなど

- 作り方：1，松笠の8個の笠に足を取り付ける準備をする。 2，竹ひごをろうソクの火で加熱して曲げる。 3，足を笠に接着剤で固定する。



<写真2> 笠を閉じ、立ち上がった状態



ろうソク／竹ひご

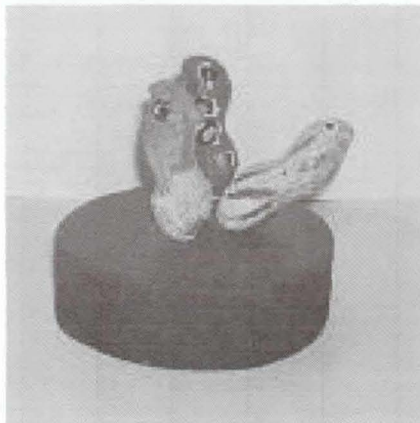
<演習例その2・発達と表現>ダンスするピーナッツ人形「ナッツくんとダンス台」の制作

ピーナッツを見立ての造形として目口や服などを着彩する。しかしそこで終わるのではなく、ピーナッツを立たせ、見せ方を工夫することで造形表現としての価値を高める。また、立たせることで見立てを強調し、より親しみを持たせる。立たせるためにピーナッツ内部と台の内部に磁石を入れる。

<写真4> 磁石入りピーナッツを穴に立たせ、手動で磁石入り台を動かすとピーナッツが穴の中で踊る。穴や台は紙箱などの利用も可能。<写真5> 参考作品ゼンマイ式ダンス台。<写真6> 参考作品電池式ダンス台。<写真7>

材料：ピーナッツ／磁石／空き箱／絵の具／木工ボンド／水性ニスなど

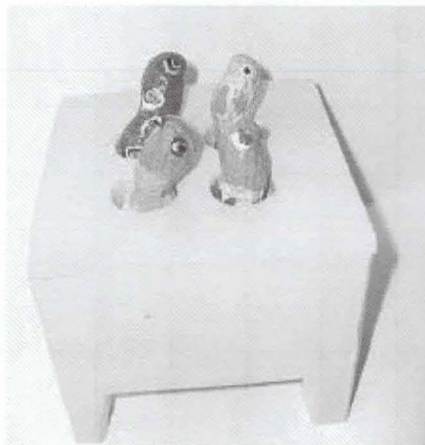
作り方：1, ピーナッツを上手に縦に2つに割り、中身を出し代わりに下部に磁石を入れ接着剤を付け閉じる。2, 接着剤の乾燥を待って、好みの絵の具で着彩をする。水彩絵の具を使用した場合は水性ニスを塗りたい。3, 台は小さな空き箱の内部上部に磁石を固定し着彩する。4, <写真5>のピーナッツを立たせる穴付き台は、プラスチックや段ボール筒などで製作も可能。また、焼き物で制作することも出来る。



ナッツくんと台
<写真4>



ナッツくんと手動式ダンス台
<写真5>



<写真6>ゼンマイ式ダンス台



<写真7>乾電池式ダンス台

(演習その1, その2: 笹井弘のエコアプローチ造形より)

<演習その3・紙素材表現>新聞紙や包装紙で遊びも含めた造形表現の在り方を理解する。

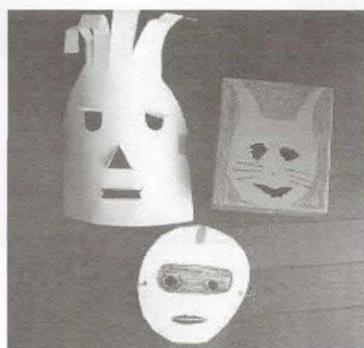
手に入り易く、加工し易く、様々な遊びや造形での利用価値が高く、且つ利用対象年齢幅が広い素材としての新聞紙は、幼児の発達段階の理解や造形表現指導に欠かせない造形材料である。破いたりちぎったりする感触を味わう遊びから、丸めて棒にして道具にしたり、動物や魚などの造形、簡単な服から飾りを付けた服、また大きな折り紙造形制作などを通して遊びや表現の理解を深め、素材の可能性を探る。<写真8>

<演習例その4・ごっこ遊びと造形表現>お面と手さげ袋の制作。両方とも幼児が特に好んで使う物で、ごっこ遊における造形表現の関わり方について理解する。<写真9と10>

お面は何のお面で素材は何にするか考える。手さげ袋は出来れば使用目的なども考慮し、素材や持ち手の接着方法などを考え制作する。



<写真8>



<写真9>



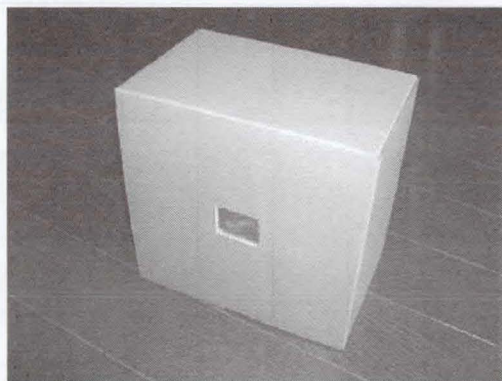
<写真10>

<演習例（講義を含む）その5・描く表現>描くことの意味と豊かな表現を引き出すために。

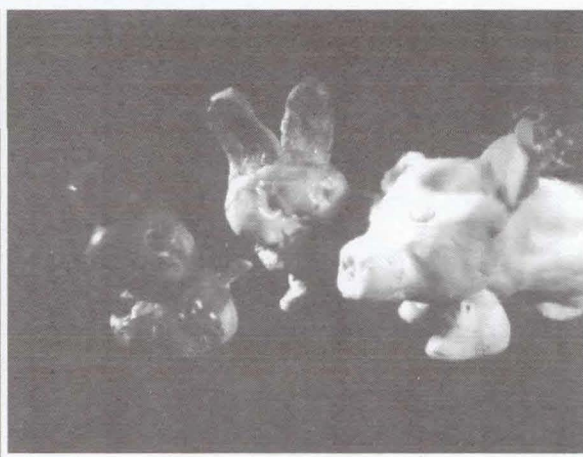
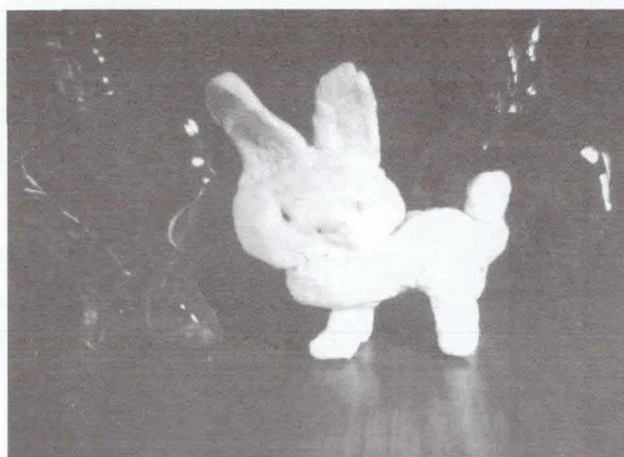
- (1) 成長による表現の変化の理解 1, なぐりがき期 2, 線がきによる象徴期 3, そのものらしく描く象徴期 4, 図式期
- (2) 幼児が積極的に描き、描くことの喜びを感じさせる保育と表現とは。
- (3) 幼児の実感のこもった表現を導き出し、生き生きとした作品を生むには。
- (4) テーマの考え方と与え方。
- (5) 幼児の描くことの範疇の広さについて。

＜演習その6・総合表現としてのピンホール写真＞1, 空き箱を利用したピンホールカメラの制作を通して適用について考える。2, 紙粘土による被写体の制作による粘土造形の理解。3, 撮影では構成と過程を、現像と焼き付けで過程と結果があることを理解する。

作業の手順 1, 紙粘土で好きな動物や人の顔など撮影用被写体を造形する。水彩などで着彩後水性ニス塗ってあれば申し分ない。2, 靴箱大の空き箱に、アルミ缶から切り出したアルミ板にピンホールを開け、箱に取り付け、黒で内部を塗り光が入らない真っ暗な箱内部を制作する。3, 印画紙を取り付け被写体を設定し撮影。晴天外で2～5分で撮影終了。4, 撮影済み印画紙を取り出し現像。洗浄。ネガの完成。5, 密着焼き付け。現像。洗浄。ポジの完成。



＜ダンボール製ピンホールカメラ＞



＜小学1年生参考作品／室内撮影25分／500ワット ライト1個と100ワットライト2個＞

(演習6：笹井弘のエコアプローチ造形より)

(参考資料・図書)

- 1, 幼稚園教育要綱 (文部科学省)
- 2, 保育内容 造形表現の指導 (村内哲二編著/建帛社)
- 3, 造形表現 理論・実践編 (花篤 實著・他/三晃書房)